

Key word 【高次脳機能障害】 【復職支援】 【支援連携】

## 支援の方向性を定めるために、連携機関を拡大した事例

対象者 50歳代・男性 主診断名 右被殻出血 障害名 左片麻痺・感覚障害・高次脳機能障害

### 復職先との情報共有が困難



- 復職したいのか、転職も視野に入れるのか、本人の方向性が定まっていない状況である。
- 本人とご家族が復職先と面談を行うが、具体的な復職条件が提示されず、情報交換も定期的に行える状況ではない。

### 連携機関の拡大について



- 利用開始して1年経過した段階でも本人の方向性が定まらないため、他支援機関からの協力も得ることとした。
- 本人やご家族、相談支援専門員をはじめ、支援に関わっている機関を集めた担当者会議を開催し、現状を整理した。

### Point!!

- 支援の方向性を定めるため、本人やご家族だけでなく、支援に関わる機関から情報を集める機会を設ける。
- 復職時に受傷前と同条件で勤務するのか、配置転換等の対応が可能なのかといった情報が支援計画を組み立てるうえで重要である。
- 方向性を判断していくには、フルタイムで勤務を続ける体力があるか、通勤手段は確保できているか等、支援に関わる機関からの情報を整理することが必要である。